

U2-1

11

構造理解 2

抽象絵画の構造理解

- 1 抽象絵画の背後にあるもの
情動と感情(神経生理学的メカニズム)
- 2 造形性の基本＝ホメオスタシス
心理的感覚の理解(水平・垂直・上下左右)
- 3 カンディンスキーの抽象理論
基礎平面・内部要素・視覚的力動性
- 4 Gestaltの観点からの絵画理解

抽象絵画の背後にあるもの？

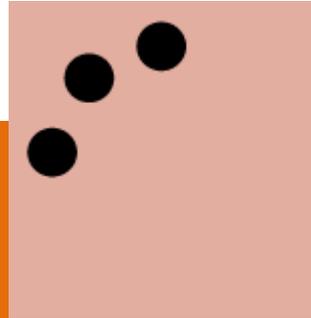
知覚

造形性

絵の表面

見えるもの

意味



バランス感覚

色彩感覚

リズム
対比
調和
...

熱い
寒い
穏やか
...

感じること

人間心理

人間の生理学的メカニズム

感情の四段階



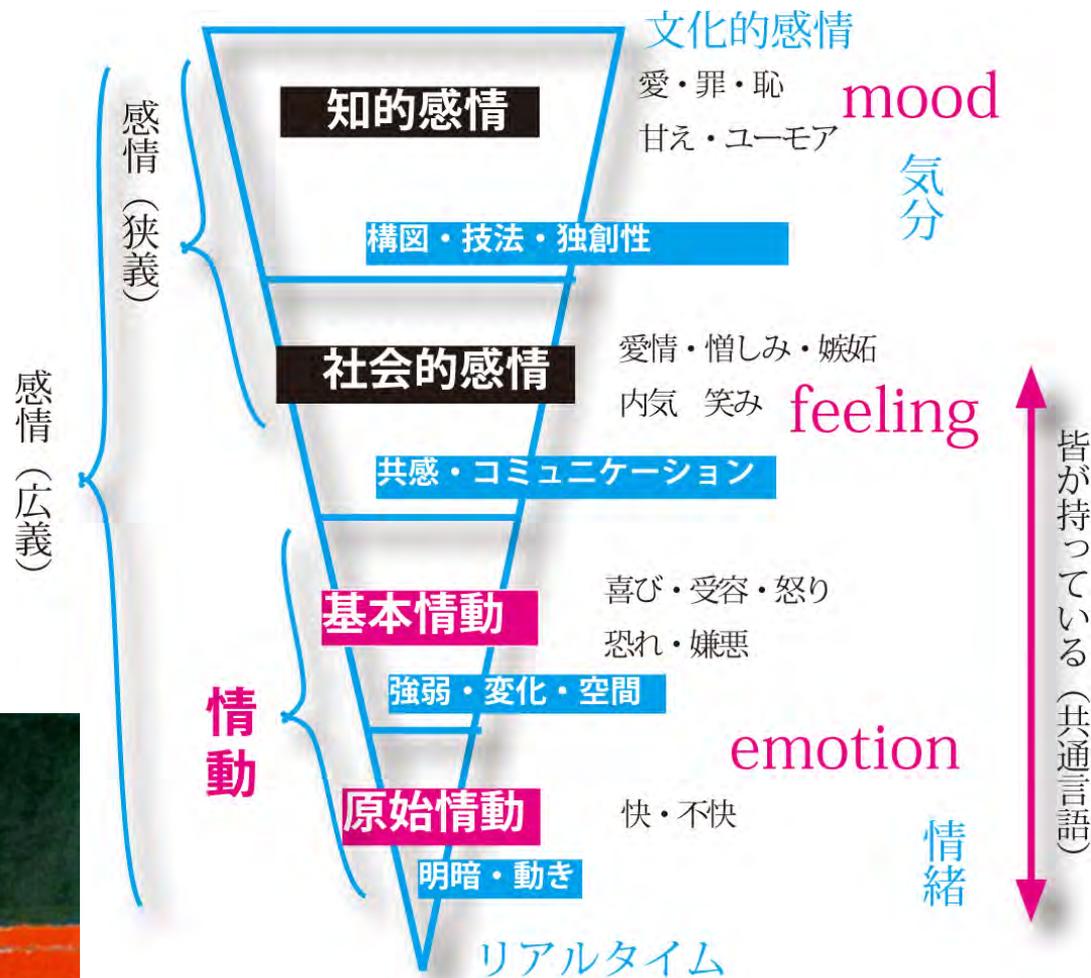
マネ



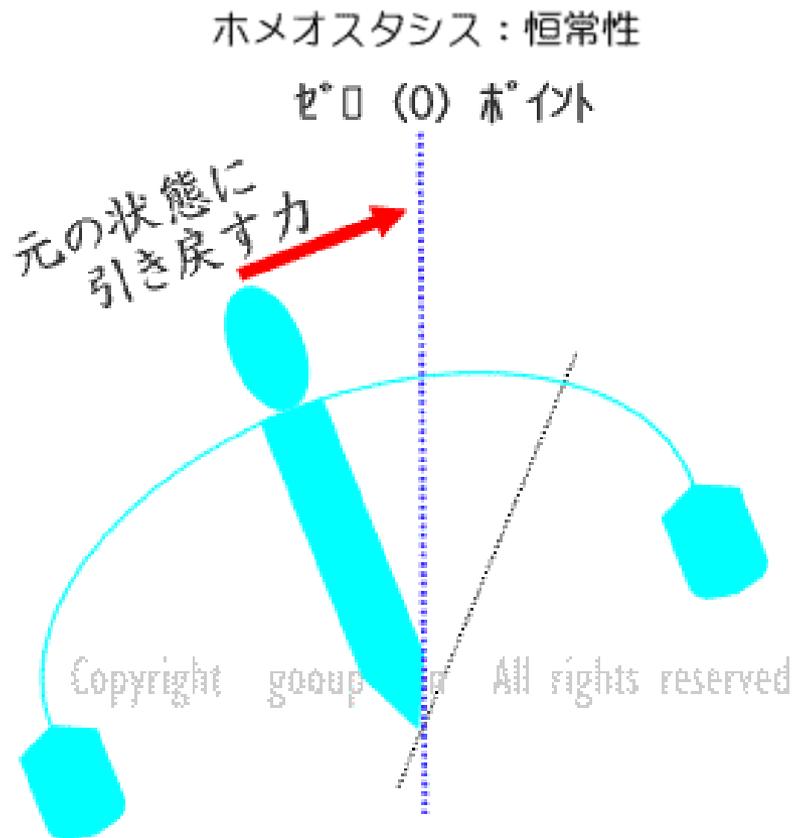
ムンク



ロスコ



基本 = ホメオスタシス (恒常性維持)



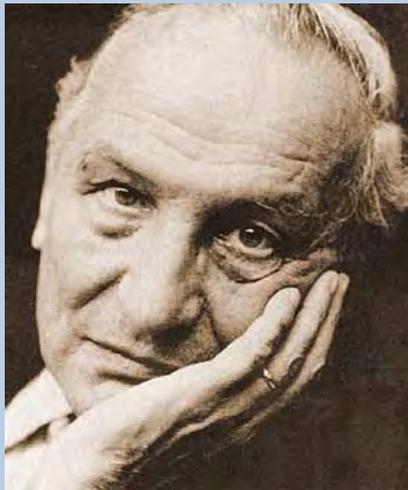
環境の変化に対して自分の体内環境を
「ある一定の範囲に保とうとする」する

元の状態に戻そうとする働きすなわち
“生じた変化を打ち消す働き”を指す現象

均衡状態の復帰の原理 <中心>

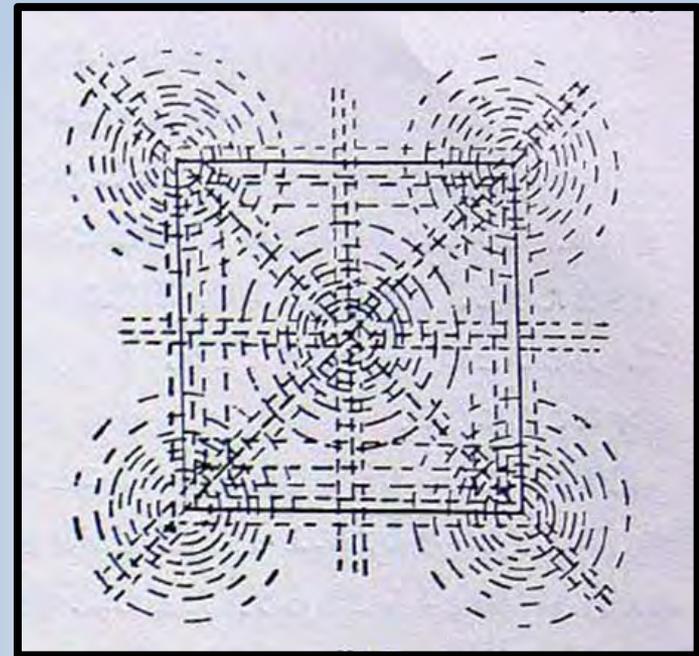
アルンハイム 「中心の力」

中心は隠れた構造の一部である。



Rudolf Arnheim

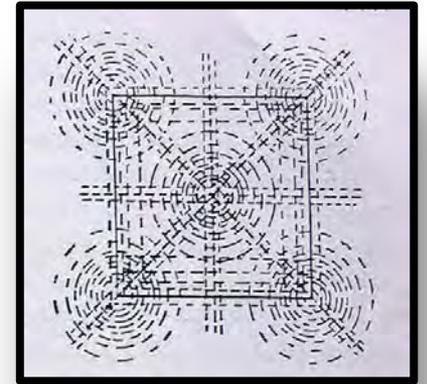
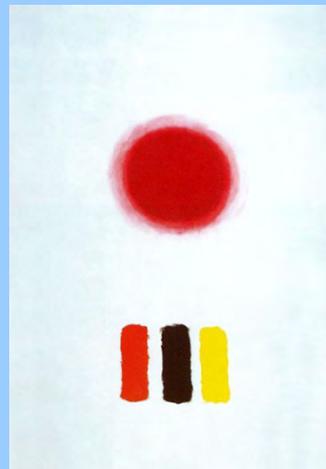
1904 - 2007年



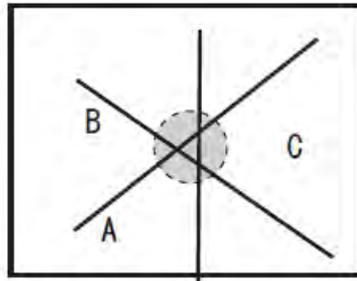
中心の力



ゴットリーブ

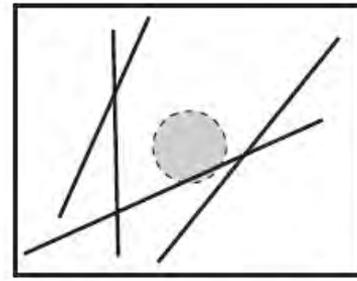


中心の力



抒情的な響き

A・B: 中心に位置する



ドラマチックな響き

いずれの線も非中心的



カンディンスキーの芸術論



Wassily Kandinsky

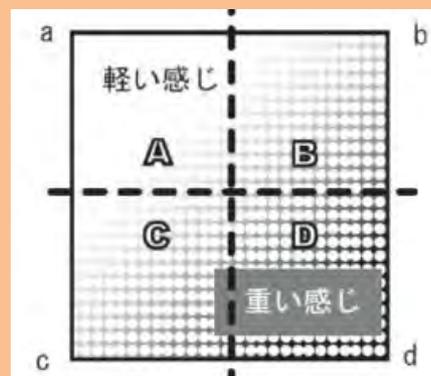
1866 - 1944年



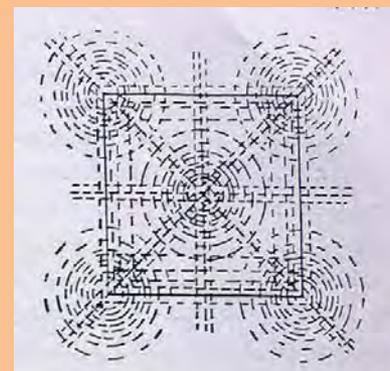
番号	■リスト1 線に関する分析 (カンディンスキー『点・線・面』より)	ページ	表・裏	顔	背	脚	腰	膝	手	足
L-1	水平線は無限の冷たい運動性を表す最も簡潔な形態 (基礎)。	61	両側							
L-2	垂直線は無限の暖かい運動性を表す最も簡潔な形態。	61	両側							
L-3	対角線は、冷と暖とを含む、無限の運動性を表す最も簡潔な形態。	62		2						
L-4	幾何学的な直線以外の直線は、平面に融合密着していない感じを与える。	64	1+4							
L-5	正方形の中心を結ぶ水平線垂直線による構成は、力強い根拠的な響きを生じ、コンポジションの原型である。	69	2							
L-6	直線は、明確で単純な2つの緊張を持つ (第一・第二の緊張)。	85								
L-7	直線は平面の完全な否定 (方向のみをもち重層的広がりをもたない)。	86								
L-8	曲線は、平面へと展開する様を包蔵している。	86		1						
L-9	楕円は、線である (円が平面であるのに対して)。	87								
L-10	曲線により主役となる緊張は、弧に潜んでいる (第三の緊張)。	85	1+10							
L-11	曲線は円の緊張を内蔵している。	91		1						
L-12	弧には円周の緊張が残り残っている。	91		2						
L-13	アクセントが減じてゆく曲線は緊張度が高められる。	96	5							
L-14	短い直線の肥太は、点が拡大する場合と類似の意味をもつ。	95	2							
L-15	滑らかな、ボゾボゾした、凸凹した線の性質は、必ず輪廓のうちに或る種の輪廓感と呼び覚ます。	97		9						
L-16	直角は、最も冷たい感じの角、自制、冷静さと感情の抑制。	75								
L-17	鋭角は、最も緊張感があり、最も暖かい感じの角でもある。尖鋭さと極度の衝動性。	75								
L-18	鈍角は、当惑と優柔不断、変動、無力感。	75								
L-19	鈍角は、角度が増大してゆく場合、ここできまる形勢が円に近づこうとする強い傾向がでてくる。	85								
L-20	時間的要素は、点より線にはるかに認められる (長さはずべて時間概念的なだから)。									
番号	■リスト2 基礎平面に関する分析 (カンディンスキー『点・線・面』より)	ページ	表・裏	顔	背	脚	腰	膝	手	足
K-1	基礎平面とは、作品の内容をうけ入れられるべき、物質的平面である。	127								
K-2	公式的な基礎平面は、二本の水平線と二本の垂直線により限定され、それによってその周辺のスペースから独立的存在として区画されているもの。	127	両側							
K-3	<上>は、希望、軽やかさ、解放、自由、上昇の感じを呼び覚ます。	129	2		5					
K-4	<上>の部分が意図された形態は、重たい感じがする。	130	2	3	2					
K-5	<下>は、積極、重さ、束縛、下向、落下の感じを呼び覚ます。	130	2		2					
K-6	<下>に重い感じの形態を、<上>に軽い感じの形態を置くと、上下両方向に向かう緊張は、弱しく増大せられる。	131	2	3	1					
K-7	<下>に軽い感じの形態を、<上>に重い感じの形態を置くと、上下両方向に向かう緊張は、その方向が変えられる。	131	2	3						
K-8	<左>は、<上>と同様の感じをよび覚ます。	133	2							
K-9	<右>は、<下>と同様の感じをよび覚ます。	133	2							
K-10	人間は、大多数が右側が発達している。右側は自由である。基礎平面は左右が異なる。	133								
K-11	<左>に近づき自由を求め、遠方をめざす運動、解放される。	135	2		1					
K-12	<右>に近づき束縛を求めていく、家へ戻る運動、疲労に伴う、生気を失う。	135	2							
K-13	要素が、基礎平面上に割合と物質的に載っている場合、このとき要素は、基礎平面の響きをともに強く強調するように作用する。	139			5					
K-14	要素が、基礎平面とほとんど緊密に結びついていない場合、このとき、基礎平面はまるっきり共鳴しない、空間に浮動するようになる。	139			13					
K-15	対角線が垂直水平線からごく僅かでもズレていることが、抽象芸術において極めて重要。基礎平面上の個々の形態がもつすべての緊張は、そのズレに憑いて、そのつど変化と違った音色を響かせる。	140	2		3					
K-16	二本の対角線の交点が、基礎平面の中心を決定する。緊張は、対角線の方向に放射する。	141	2							
K-17	対角線には、軽々と下の三角形に載っている<バーモニー>をもつ対角線と、下の三角形に注目を加え、その上に重くのしかかっている<デイス・ハーモニー>をもつ対角線とがある。	142	2	4						
K-18	基礎平面の辺に接近することにより、形態は緊張を獲得するが、この緊張は、辺と接触する瞬間、取ちなくなってしまう。	155	2		8					
K-19	基礎平面の中心近くに集まっている形態は、構造的に特異的な響きを与える。	155	2		2					
K-20	直線に比べ、曲線の場合には、響きの総数は三倍にふえることになる。(直線は、第三の緊張を生む二つの緊張よりなりたっているから)。	156		1						

基礎平面

- ・ 絵画の画面は、**ただの四角形ではない**
- ・ 画面は、均質では無い **上下・左右で異なる**



カンディンスキー



アルンハイム

基礎平面

画面は、均質では無い、上下・左右で異なる



元絵



基礎平面

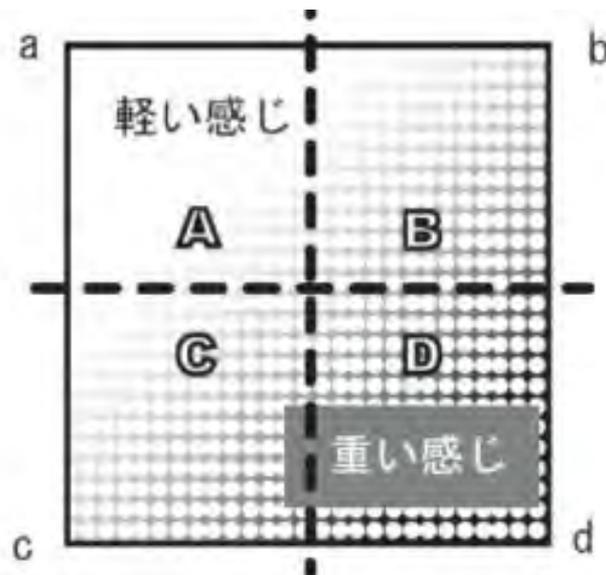
画面は、均質では無い、上下・左右で異なる



元絵



軽い



基礎平面

4角の平面は、かたちにより、どのように感じるか？



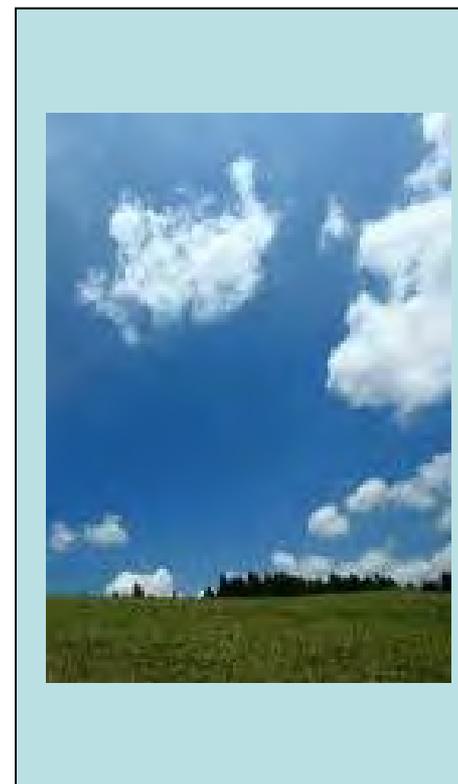
横広がり

水平

安定

冷たい

経験の
連想



上下への動き

下から上へ

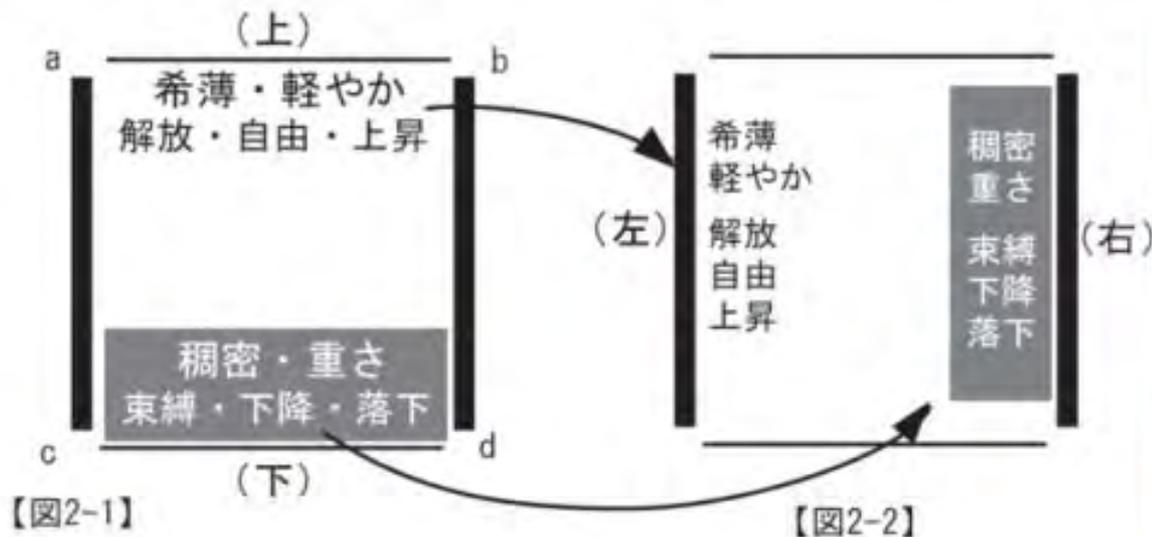
左右から圧迫

暖かい

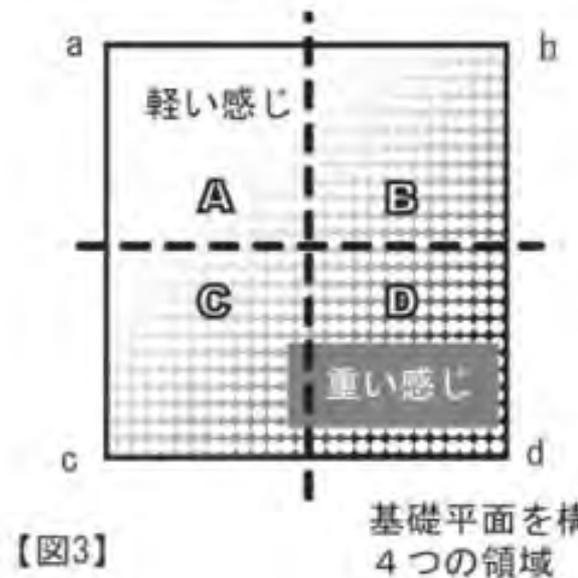
基礎平面

画面は、均質では無い、上下・左右で異なる

2. 基礎平面の上下左右の情動性



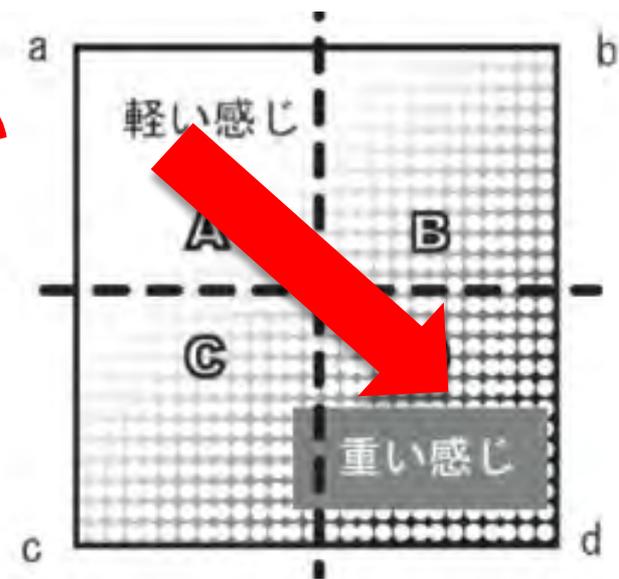
3. 重さの配分





- ・基礎平面の軽・重
- ・視線が動く傾向

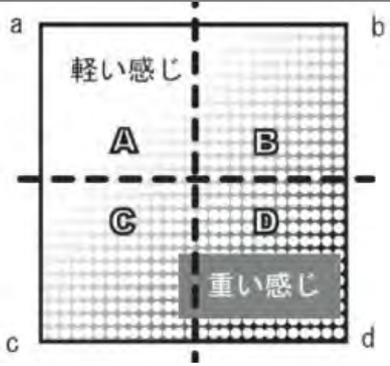
軽い



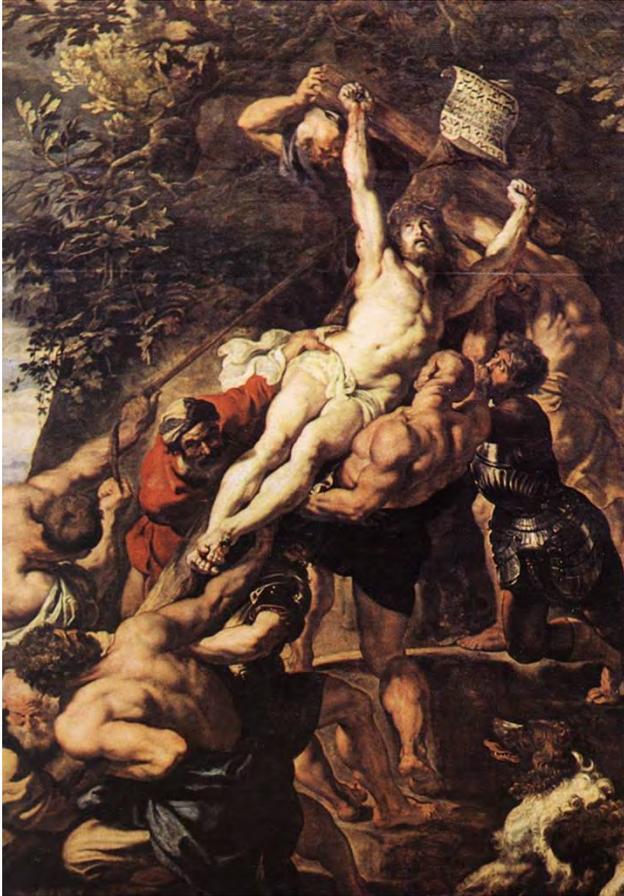
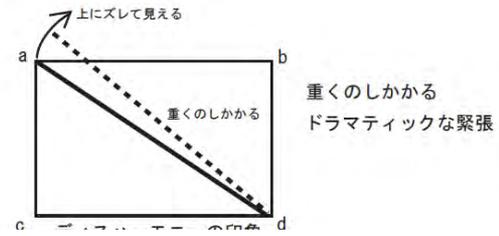
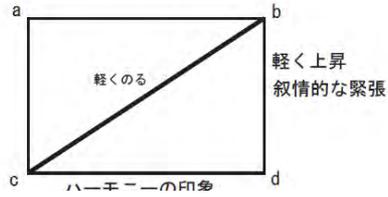
重い



図の方向性

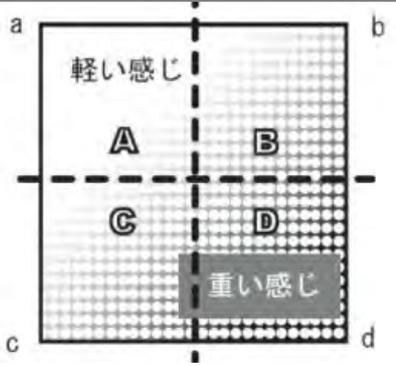


5. 対角線 (緊張測定線)

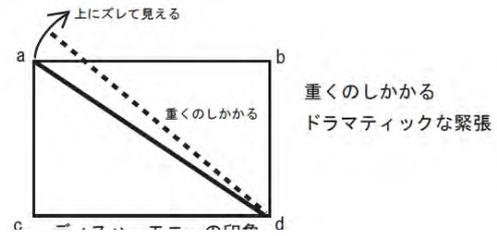
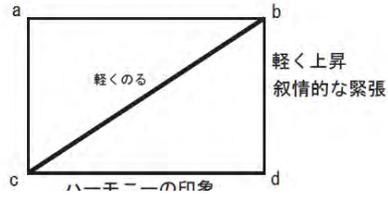


「キリスト昇架」(1610-1611年)

図の方向性



5. 対角線 (緊張測定線)



「キリスト降架」(1610-1611年)



「キリスト昇架」(1610-1611年)

絵画における左右問題



左右反転した画像から受ける印象は異なる

この問題を最初に指摘したのは今世紀前半の美術史家ヴェルフリン (Wölfflin, H.) であるとされている。彼はラファエロなどの作品のオリジナルと反転像を実際に比較して、画面の左側と右側は決定的に性質が異なり、そのため左右の反転は受ける印象を大きく変えてしまうと主張した。この原因として多くの研究者が想定しているのは、絵画は「左から右へと読まれること」、すなわち左から右へと画面を走査する傾向が一般にみられることである。その根源には西欧の左から右への書法がある

左右問題

どちらが元絵？

基礎平面

遠い・深い

軽い

軽い感じ



重い感じ

重い

近い・浅い



左右の反転(フリップ)により印象が変わる。
この問題を最初に指摘=ヴェルフリン
向かって左から右への走査
壁面に描かれた物語絵も左から右へ
展開する
右側に主題が置かれる画面が好まれる

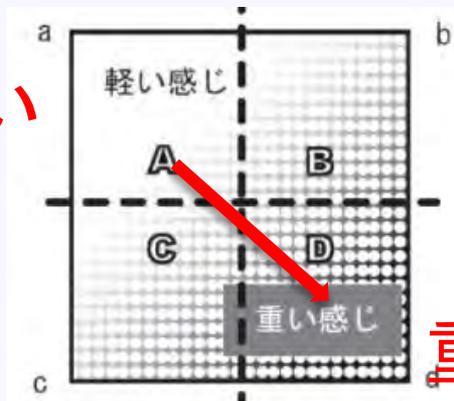




林檎と桃のある静物 1905年頃
Nature morte aux pommes et pêches
カンヴァスに油彩 81.2×100 cm
Washington D.C., National Gallery of Art,
Gift of Eugene and Agnes Meyer



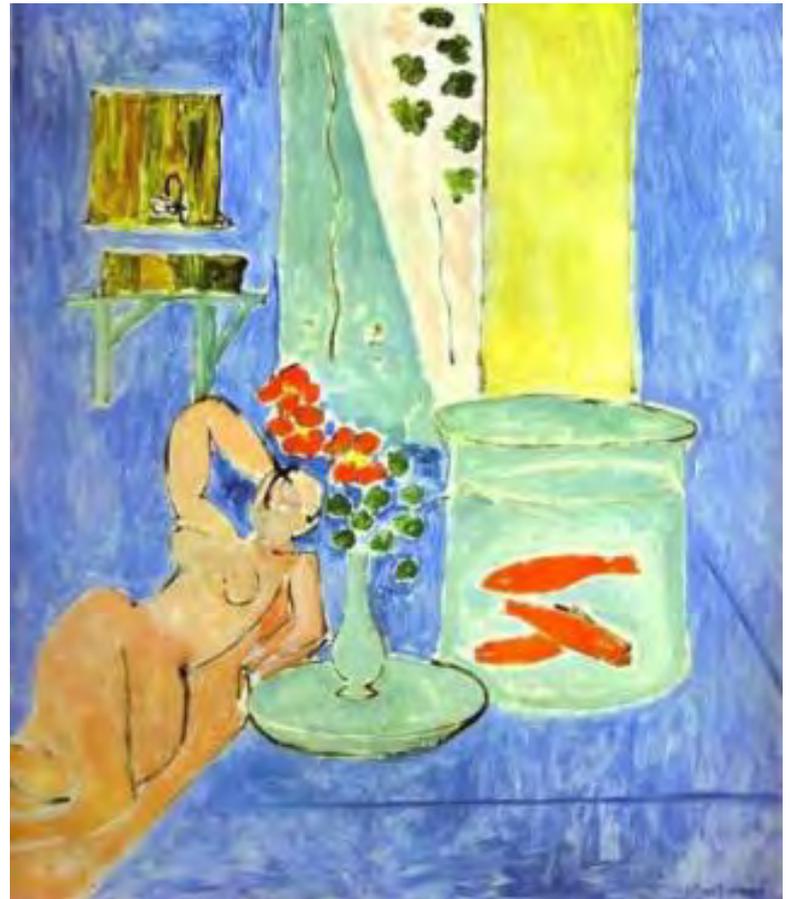
軽い

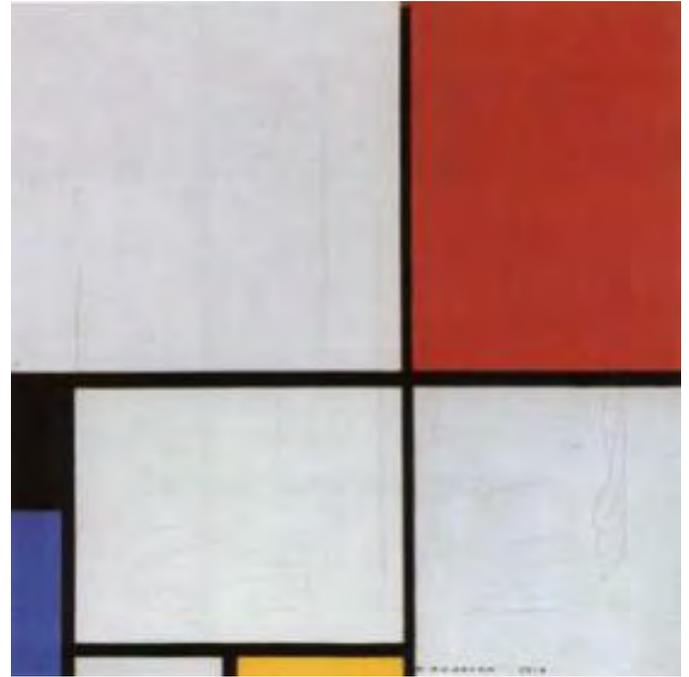
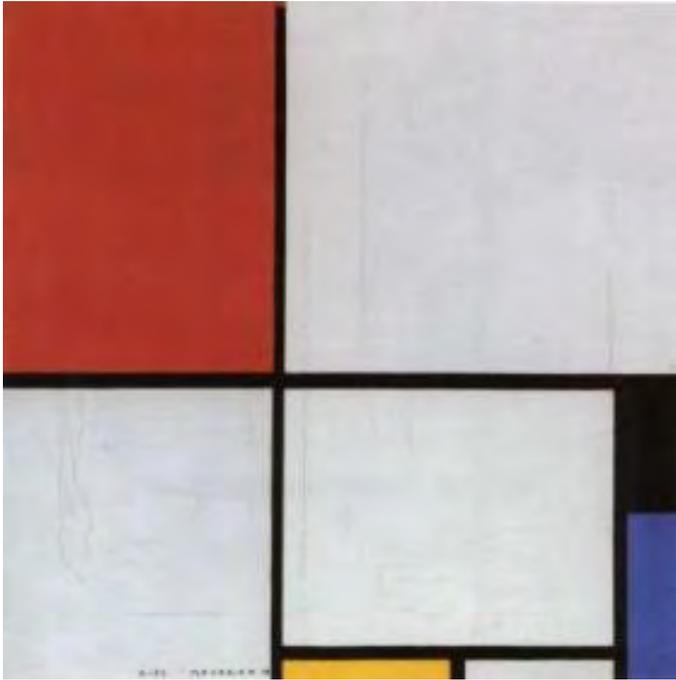


重い

睡蓮、1916年
Nymphéas







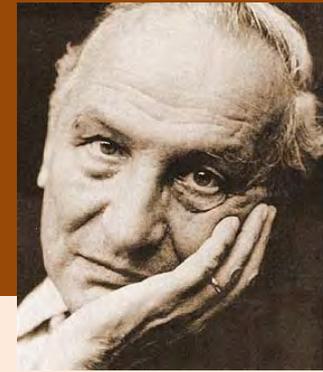
方向のある緊張＝運動不在の力

知覚的ダイナミクス

Kandinsky

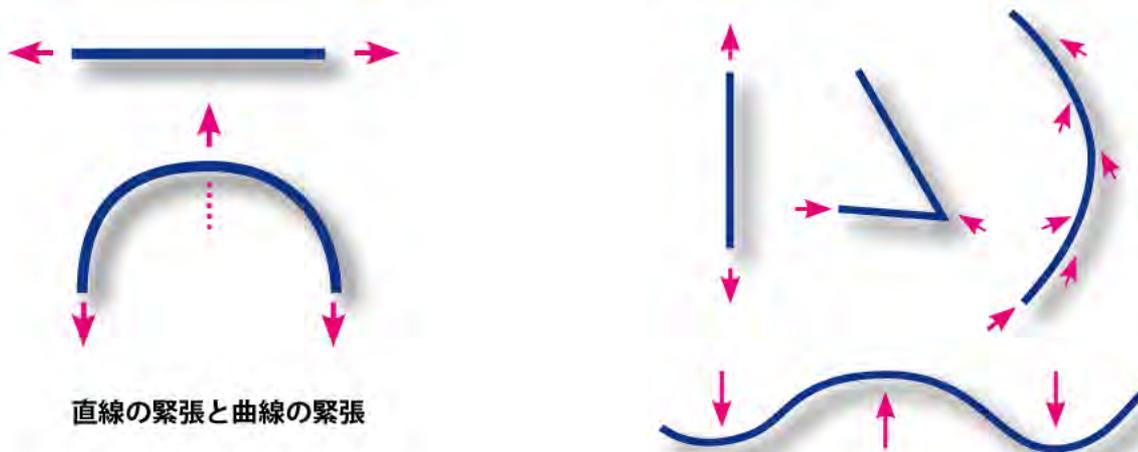


Arnheim



外部要素と内部要素 (カンディンスキー)

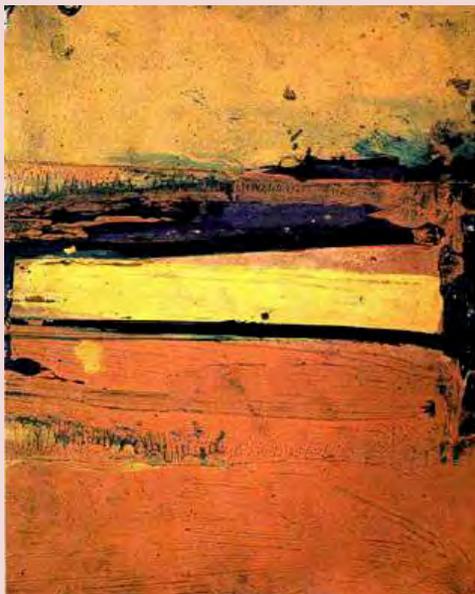
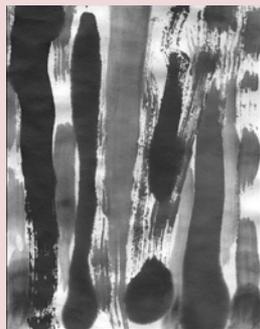
カンディンスキーの主張、それはすべての要素が二重になっていて、外部的でも内部的でもあるという事である。この「要素の理論」は、**外在性＝目に見えるモノ**と、**内在性＝見えないモノ**を同時に備えているとする。したがって、**目に見えるこうした描線**として存在し、同時に**内部的には一定の情動性**をもったかたちで存在する。

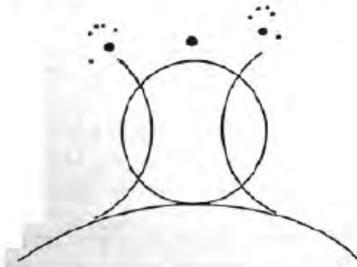
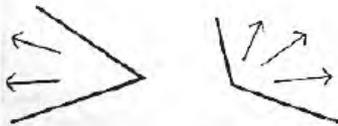
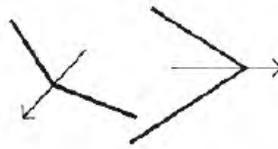
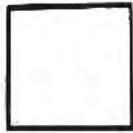
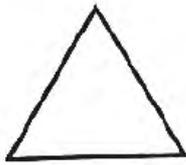


直線の緊張と曲線の緊張

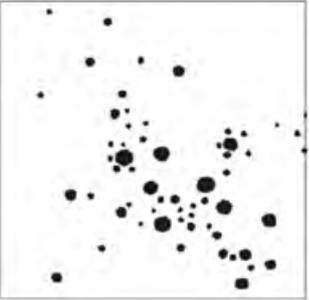


- ・ 描かれた形には、軸ができる
- ・ 軸には方向のある力ができる
- ・ 視覚対象は主軸の方向に動くことを好む
- ・ 形の軸はふたつの反対方向への運動を生ずる。
ひとつがいろいろの理由で選ばれる

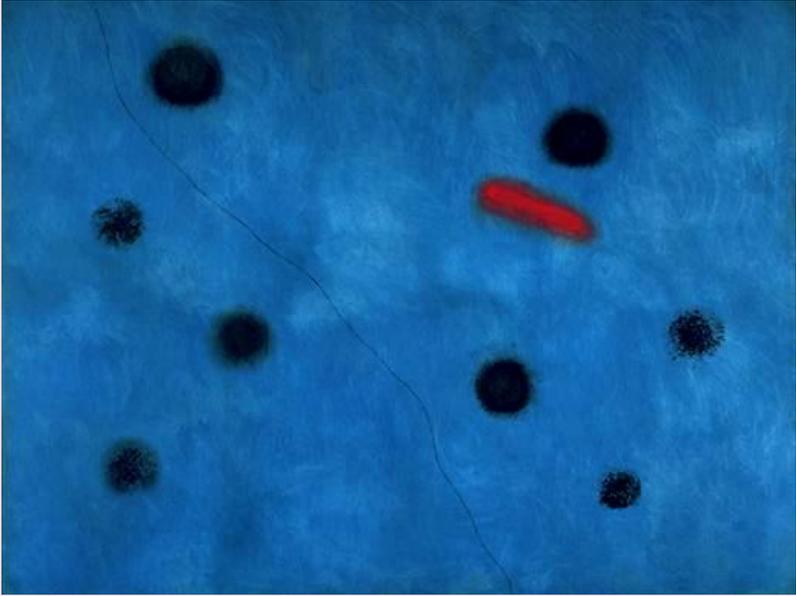




ベートーベン「第五シンフォニー」第一楽章



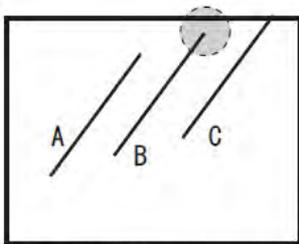
ベートーベン「第五シンフォニー」第一楽章



視覚的力動性＝緊張体験

筋肉や関節をうごかす物理的な力＝運動感覚によるものではなく、刺激によって**大脳**に起こされた**感覚神経**による**知覚的な力**による。

すべての人間に共通な基本的な視知覚系であり、そのことによって「**普遍性**」を備えているといえる。

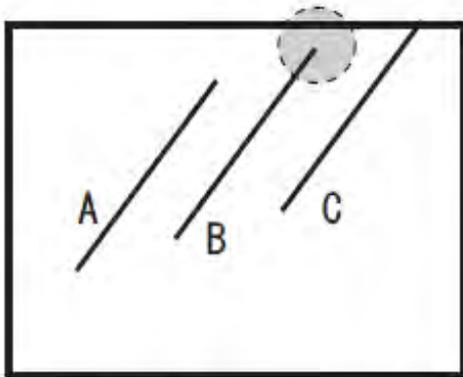


- A: 抒情的
- B: 上辺への緊張が加わる
- C: 接触により緊張解除



辺が持つ、緊張誘発力

6. 辺への接近による緊張

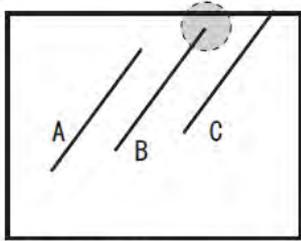


- A : 抒情的
- B : 上辺への緊張が加わる
- C : 接触により緊張解除

【図6】



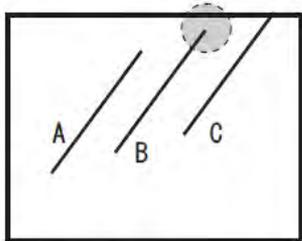
辺が持つ、緊張誘発力



- A: 抒情的
- B: 上辺への緊張が加わる
- C: 接触により緊張解除



辺が持つ、緊張誘発力



- A : 抒情的
- B : 上辺への緊張が加わる
- C : 接触により緊張解除

【図6】



辺が持つ、緊張誘発力



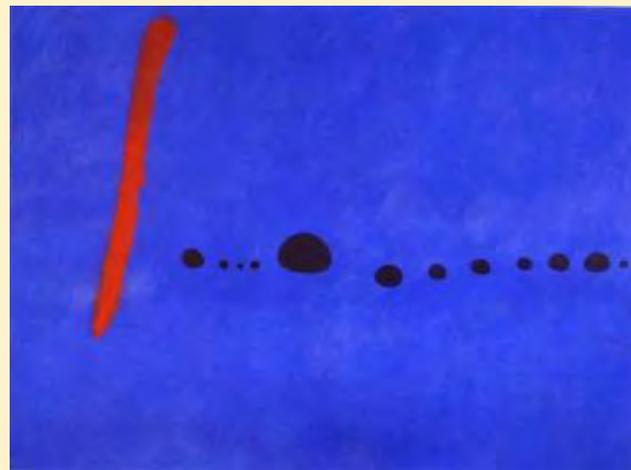
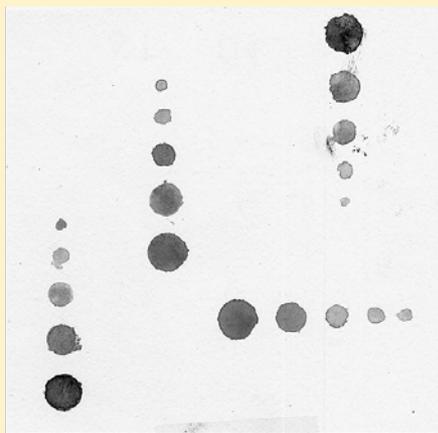


視覚的力動性

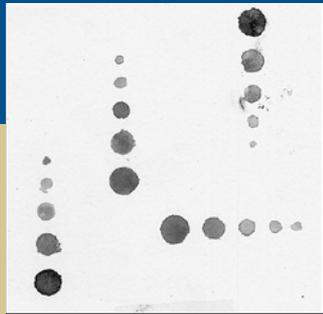
1. 事例検証

- ◆ 上下、左右
- ◆ 水平・垂直
- ◆ 斜め・対角線
- ◆ 動き・スピード

上昇運動の方が水平運動よりも速く動くように見える(ブラウン)



視覚的力動性



作例を見る

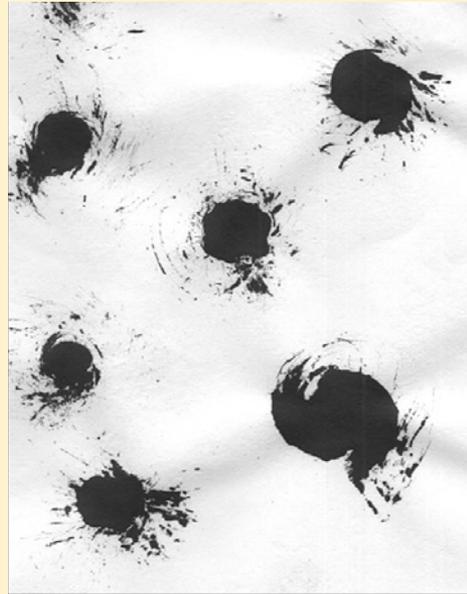
荒木哲夫

点・水平・垂直



視覚的力動性

- h- 1 モノとモノとの間隔は力動的である
- h- 2 小さい形(モノ)の方が動く
- h- 3 そばに描かれたモノの方に引きずられる傾向がある



視覚的力動性

1. 事例検証

- ◆ 上下、左右
- ◆ 水平・垂直
- ◆ 斜め・対角線
- ◆ 動き・スピード

垂直の方向をとる形は斜めになっているものよりも重い



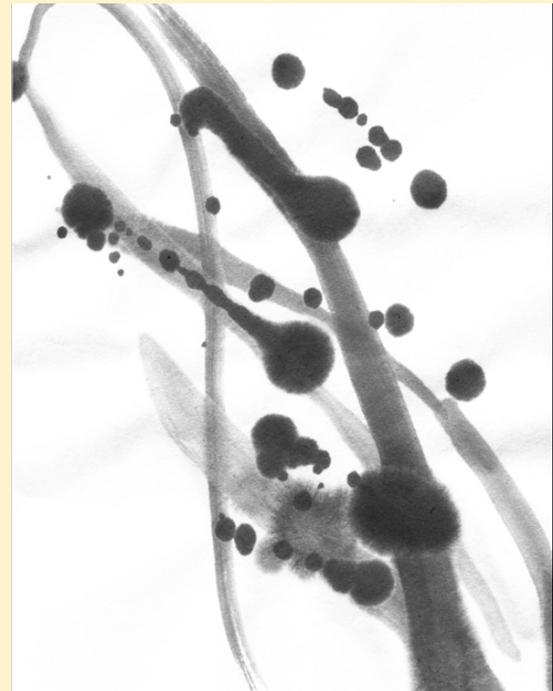
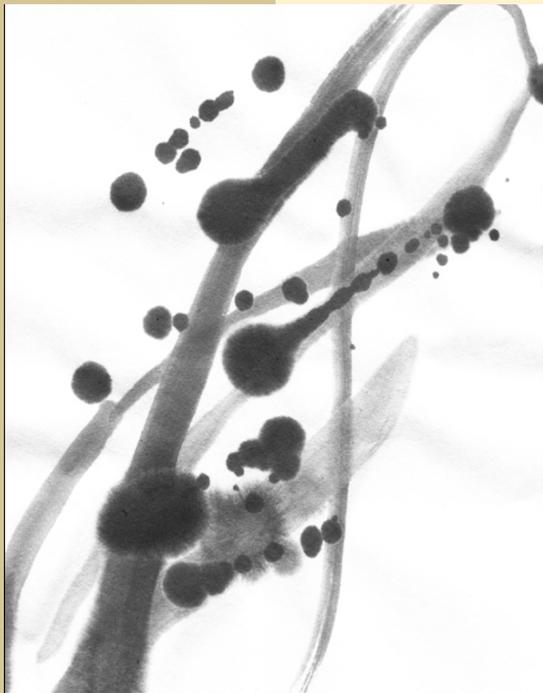
ニューマン



ルイス

視覚的力動性

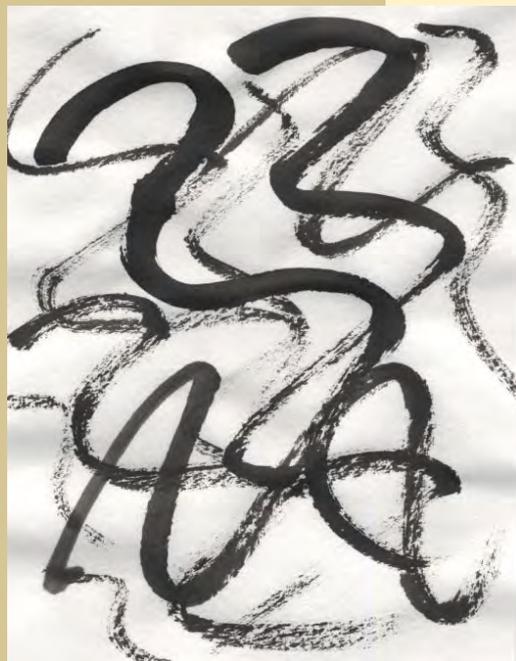
- e- 1 斜め位置は、強い力動的な効果を生み出す
- e- 2 左下から右上への対角線は上昇的（ベルフリン）
- e- 3 左上から右下への対角線は下降的（ベルフリン）
- e- 4 斜線が方向のある緊張を生ずるのは正常な位置からズレたものと認められるから
- e- 5 斜め方向位置は方向のある緊張をつくりだす最も有効な手段であらう





視覚的力動性

動き・スピード



視覚的力動性

薄暗い方が動き, 明るい方は静止する
ぼやけて薄くなっているものは動きを感じさせる(車輪・旗・腕・脚)

